

第1回大府市環境基本計画策定市民会議 議事録

日時：令和元年8月29日（木）

午後3時から

会場：大府市役所 会議室 203

＜委員出席者＞ 10名（敬称略）

原田 文彦（吉田小学校校長）、山本 友和（老人会）、山口 美千代（公募委員）、佐藤 孝（環境美化推進員）、嘉藤 栄子（生活排水クリーン推進員）、鈴置 史男（緑化推進研究会）近藤 由美子（地域婦人連絡協議会）、中西 信之（学習グループ大人の学び舎）、上野 祥数（住友重機械工業株式会社）、石井 沙織（知多県民センター環境保全課）

1. 開 会

2. あいさつ

3. 委員紹介、会長選出

各委員自己紹介。原田委員を会長に選出

4. 大府市環境基本計画改定について

改定方針、スケジュール等

5. ミニレクチャー

テーマ：環境政策の動向と環境基本計画策定の意義について

講 師：千頭 聡 先生（日本福祉大学国際福祉開発学部 教授）

- 国連で採択された「SDGs」を大府市としてどう受け止めるかが大切であり、市民の日常生活の世界とつながっていくことを可視化する必要がある。
- 地域にとっての持続可能な社会をどう形作るかが大切であり、そのためには4つのE（経済・環境・教育・構成）とその相互関係性、多様性と固有性の両立が必要である。
- 環境基本計画は環境分野の個別計画であるとともに、まちづくりに関わるすべての取組を環境の視点から横串を刺したものであり、策定プロセスにおける市民との協働が重要である。
- これからの環境まちづくりには「タテの連携」と「ヨコの連携」、「自分事からさらにみんな事へ」が大切である。

6. 環境に関する市民アンケート調査 集計結果の報告

- 大府市の全般の環境の評価は、「快適な環境である」「どちらかといえば快適な環境である」をあわせて 82.8%である。
- 環境に関する理解度や取組の状況は、環境への理解や取組の必要性を感じるが実践できていない人が 82%であり、実践可能性のある人が多い。
- 日頃の環境行動は、「すでに取り組んでいる」が少ない項目も、「今後は取り組みたい」が多い。
- 環境活動への参加・協力意向は「積極的に参加」、「時間があれば参加」をあわせて 65%である。
- 市民の環境行動を促すために必要なことは「情報提供」、「成果に応じた特典」、「イベント等の実施」が多い。
- 生活環境において重要と考える要素は、「マナーやモラルが守られまちが美しいこと」が最も多い。

7. 全体討議

大府市の今後の環境課題について

- (委員) 現在、土地を借りて樹木を育てる活動をしている。この活動を通して、人の心を育てる事に繋がっていかれたらと考えている。
- (委員) 地域清掃活動を行ううえで地域住民の繋がりが弱くなっていると広がっていかない。犬のフンや地域猫についても同様に、地域の問題は地域で解決するという意識が必要。
- (委員) もみ殻を利用してアスパというものを作成している。アスパを生ごみにふりかけて発酵させることで堆肥にすることができるうえ、ごみの減量化にも繋がる。
- (委員) 公民館まつりで出店した際に出た生ごみはアスパを利用し畑で使用する肥料にしている。
- (委員) 生活排水対策を通してムダなものは使わない、買わないでスッキリした生活をするができる。子ども向けの講座をやることで、家庭でできることを親子でやることで子どもにも習慣がつく。これの繰返しが生活排水を意識した人が広がっていく。
- (委員) 下水道普及が進んでいる中で生活排水への配慮はまだまだ必要か。
- (委員) 区域によっては下水道整備が計画されていない場所もあるため必要。
- (委員) インフラ部分は行政に整備してもらい、「牛乳を直接排水口に流さない」、「使い過ぎを防ぐために無駄なものは買わない」など個人でできることを啓発することが重要と考えている。
- (委員) 事業所周辺の清掃活動に参加してくれる従業員の参加人数、顔ぶれが一緒になっている。今後、多くの人に参加してもらえるかが課題。また製品を

梱包している緩衝材などのプラスチック（出荷するもの、入荷するものを含め）を、どう削減することができるか検討している。

（委員）ここ数年の気温の上昇で、室内で熱中症になっている高齢者が出ている。行政でも熱中症対策を考えてもらえると高齢者は助かる。また科学を大人の学び舎の参加者で集まり、勉強会をし、参加した人には子ども達を相手に講師をしてもらっている。この活動を通して科学が好きな子どもが増え、地球温暖化を考えるきっかけになったらよい。

（委員）産業廃棄物の適正処理を促して廃棄物減量を事業所に周知していきたい。

（委員）大府市内の小中学校では自校給食となっており、月に2回地場産のものを使用した献立があり、子ども達の食育に繋がっている。アンケート結果でも「豊かな農地の維持」というキーワードもあるので、小中学校での活動が大府市の環境保全に役立つものにしたい。

（委員）今の活動のきっかけがある社員が車の運転中に川が汚いと思ったことからだった。自分達の住む町がきれいだと気持ちも良いのでできることから少しずつ行っていった結果が現在になっている。防犯パトロールも集まれる人が無理のない範囲で活動をしている。

（委員）川の清掃活動も場所によっては危ない場所もあったりするが、どのように対応しているか。

（委員）人数や参加した人を見て、できる場所とできない場所を判断し、安全に活動ができる範囲で活動している。また疑問が出た部分については行政等に相談し、活動に活かしている。

（委員）植樹活動をしているが他の人が興味を持ち、活動をするきっかけ作りとして参加できるように活動している。行っていた活動が地域住民で維持、広がっていきそうなら、活動の主導を地域に引渡し、違う活動の輪が広がるようにしている。

8. その他

- ・第2回大府市環境基本計画策定市民会議は11月に開催予定